

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学Ⅳ(0235)
科目基礎情報					
科目番号	0121		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	産業システム工学科電気情報工学コース		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	化学基礎、化学、ダイナミックワイド図説化学、ニューグローバル化学基礎+化学 (全て東京書籍)				
担当教員	菊地 康昭				
到達目標					
有機化合物の構造を表記し、官能基によって分類することが出来る。有機化合物の性質、反応について特徴付けながら理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	有機化合物の構造を何種類かの方法で表記出来、官能基によって分類することが出来る。		有機化合物の構造を表記し、官能基によって分類することが出来る。		有機化合物の構造を表記できず、官能基によって分類することも出来ない。
評価項目2	有機化合物の性質、反応について化学構造と官能基との特徴を関連付けながら理解出来る。		有機化合物の性質、反応について特徴付けながら理解できる。		有機化合物の性質、反応について特徴付けることが出来ない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達目標 B-1					
教育方法等					
概要	有機化合物の結合の多様性を理解して、表記方法と命名法を身に付ける。炭化水素（アルカン、アルケン、アルキン）の構造と分類、その反応等を理解し、知識を身に付ける。酸素を含む官能基を有する有機化合物（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、エステル）の分類を理解し、代表的な個々の官能基の性質に対する知識を身に付ける。芳香族炭化水素および酸素や窒素を含む芳香族化合物の構造とその反応を理解している。また、芳香族化合物の分類について理解している。				
授業の進め方・方法	有機化合物は構成元素の結合の仕方によって多様な構造を生ずることを理解し、それらを表記・分類・命名することが出来るようにする。有機化合物の性質や反応性が、その構造や官能基に特徴付けられることを見出し、論理的に考察できるようにする。				
注意点	1年で履修した、化学Ⅰ～化学Ⅲの内容を使うことがあるため、適宜復習しておくことが重要である。授業では複数回の小テストや課題を行うが、普段から授業をしっかりと理解して、これらに取り組むこと。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	有機化合物の特徴、有機化合物の分子式と構造式		有機化合物の特徴、有機化合物の分子式と構造式を理解している
		2週	有機化合物の分類と構造異性体		有機化合物の分類と構造異性体分かる
		3週	有機化合物の構造式の決定		有機化合物の構造式の決定分かる
		4週	炭化水素の命名法		炭化水素の命名法を理解している
		5週	飽和炭化水素の構造、性質、反応		飽和炭化水素の構造、性質、反応を理解している
		6週	不飽和炭化水素の構造、性質、反応（1）		不飽和炭化水素の構造、性質、反応を理解している
		7週	不飽和炭化水素の構造、性質、反応（2）		不飽和炭化水素の構造、性質、反応を理解している
		8週	アルコールとエーテルの構造、性質、反応		アルコールとエーテルの構造、性質、反応を理解している
	2ndQ	9週	アルデヒドとケトンの構造、性質、反応		アルデヒドとケトンの構造、性質、反応を理解している
		10週	カルボン酸とエステルの構造、性質、反応		カルボン酸とエステルの構造、性質、反応を理解している
		11週	芳香族化合物の構造、性質、反応		芳香族化合物の構造、性質、反応を理解している
		12週	フェノール類と芳香族カルボン酸類の性質と反応		フェノール類と芳香族カルボン酸類の性質と反応を理解している
		13週	芳香族アミン類の性質と反応		芳香族アミン類の性質と反応を理解している
		14週	有機化合物と人間生活		有機化合物と人間生活分かる
		15週	到達度試験		
		16週	答案返却とまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	小テスト・課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	